

## 監査役会通信 (No.12)

2017年3月

特別顧問

采 孟

### Be Gentleman!

北海道大学の前身である札幌農学校に招聘されたクラーク先生の「Boys Be Ambitious」というメッセージはあまりに有名です。その理由のひとつは Ambitious を「野心」と訳さず「大志」と訳したところにあると思います。「野心を抱け」よりも「大志を抱け」の方が日本人の感性にはよく馴染みます。名訳の最たるものでしょう。

先生はもうひとつ重要なメッセージを残されています。それは「Be Gentleman 紳士たれ」です。札幌に着任されたとき、日本人教師から提示された細かな校則に対して、校則はひとつあれば良いと示されたのが「Be Gentleman」でした。実際札幌農学校の校則は「Be Gentleman」の一言に決まりました。先生は、紳士が規則を厳格に守るのは規制に束縛されているからではなく、自らの良心に対して厳格な故であり、何事に際しても自らの行動は紳士として恥ずかしくないかと問いかけることだけを求められたのです。この薫陶は直接先生に師事した生徒はもとより農学校で学んだ生徒たちに引き継がれました。その中には内村鑑三や国際連盟事務局次長として活躍し英文で「武士道」を執筆した新渡戸稲造がいます。

最近、企業経営においてとみにコンプライアンスが話題になります。粉飾決算やデータの捏造など、残念ながらいわゆる一流と言われる企業においてもこのようなことが起きています。これらの企業のリーダーは選ばれた見識の高い人たちでもあり、法令遵守の大切さをご存知ないわけはありません。また、それらの場面での悩みを他人やマスコミが全て理解できるわけでもありません。しかし、私は結果としてこれらの人たちはそれらの場面において Gentleman ではなかったと思うのです。そして株主や顧客だけでなく従業員やその家族の期待を裏切ることになりました。

「Be Gentleman」にも武士道にも共通している教え、それは「卑怯ではないこと」です。経営やビジネスにおいてはある結論や決断が常に正しいとは限りませんが、絶対に必要なのは「卑だけは避ける」という信念ではないでしょうか？どのような論理があろうともビジネスはヒトが行う活動であるが故に、折に触れ「Are You Gentleman?」と自らにちょっと距離を置いて問いかけることが大切だと思います。「粗にして野だが卑ではない」、これは元国鉄総裁の石田禮助氏の言葉です。